

心理学から安全への貢献 ―特集にあたって―

立教大学現代心理学部 芳賀 繁

Special Issue Preface: Contribution of Psychology to Safety

Shigeru Haga (College of Contemporary Psychology, Rikkyo University)

1998年4月から在職してきた立教大学を卒業するタイミングで、今年度の立教大学心理学研究を私の退職記念号としていただくことになりました。それで、一般の投稿論文とは別に、「心理学から安全への貢献」というタイトルの特集を組み、私と研究上のご縁のあり、かつ、安全研究の第一線で活躍している方々に寄稿および投稿をお願いしました。

巻頭言を書いてくださったのは私の前任者である正田亘（まさだ・わたる）立教大学名誉教授です。正田先生には大学で師事したわけではありませんが、私の実質上の指導教授と言っても過言ではありません。私がJRの鉄道総合技術研究所（鉄道総研）に在職しているとき、ある先生に、「輸送システムにおける事故研究の方法論」という論文を書いたのでどの学会誌に投稿すればよいかと相談したところ、「正田さんに連絡しなさい」と即答されました。それ以来ずっと、研究上のメンターとして、様々なご指導を受けています。まさに「私の恩師」です。巻頭言には「安全と心理学」についてご自身の考えを書いていただこうと思っていたのですが、私に対する過分なお言葉を頂戴してしまい、大変恐縮しております。

招待論文を寄稿していただいた重森雅嘉（しげもり・まさよし）さんは鉄道総研の後輩に当たりますが、在職期間は重なっていません。立教大学文学部心理学科を卒業した後、学習院大学の大学院を博士課程後期課程まで進み、鉄道総研に就職

されました。鉄道総研在職中からヒューマンエラーに関する認知心理学からのアプローチを続けるとともに、鉄道現場の安全施策に寄与する応用研究でも成果をあげておられます。研究テーマやアプローチの仕方が私に似ているのですが、40代で鉄道総研から大学教員への道を選んだキャリア・パスも私と同じです。もしかしたら私をキャリア・モデルにしてくださっているのかもしれませんが。今回は「管理的安全から創造的安全へ」と題して、私も最近強い関心を持っているレジリエンス・エンジニアリングを独自に解釈して発展させた論考を展開していただきました。

もう一人の招待論文執筆者は申紅仙（しん・ほんそん）さんです。彼女は正田亘先生の教え子で、私が立教大学に着任したとき博士課程後期課程に在学していました。したがって、私が博士論文の指導をした第1号となります。学位取得後、防災科学技術研究所の特別研究員、常磐大学の専任講師などを経て、現在は同大学の教授として教育研究活動に精力的に取り組んでおられます。安全に関連する研究テーマは、自然災害、労働災害、緊急時の行動特性、ヒューマンエラー、不安全行動など幅広く、各方面からの講演依頼が引きも切らないと聞いています。今回は、「ダイバーシティ（多様性）経営時代の労災リスクと今後の事故防止活動を考える」と題する興味深い内容の論文を寄稿していただきました。

原著論文の筆頭著者である増田貴之（ますだ・

たかゆき)さんは重森さんと逆の進路で、学習院大学を卒業してから立教大学の大学院に進学されました。リスク行動の研究をしたいということで、学習院大学在学中から私の研究室に出入りして、私が実質的な卒論指導を行いました。大学院進学後は自動車の運転支援システムがドライバーの安全行動に与える影響を実験で調べる研究を重ね、立教大学から博士学位を授与されています。その後すぐに鉄道総研に入り、現在は鉄道の安全に関わる様々な心理学的研究に携わっておられます。今回は、鉄道総研の先輩・後輩らと共著で「独立したダブルチェックのヒューマンエラー防止効果」というタイトルの論文を投稿してくれました。

もう一つの原著論文の筆頭著者は大谷華(おおや・はな)さんです。彼女は私が立教大学に着任した年に心理学科の4年生でした。つまり、芳賀ゼミ1期生ということです。卒業後大学院に進学し、博士課程後期課程を満期退学した後、立教大学の心理学科で実験調査実習などを担当する兼任講師を勤めるかたわら、環境心理学および安全心理学の研究を続けてきました。とくに、私が研究

代表者として文部科学省科学研究費に申請して採択された「仕事の誇りは安全行動を促進するか」(平成24度—26年度)と、「安全行動の要因としての『仕事の誇り』と組織の公正」(平成27度—29年度)は、彼女が研究推進のエンジンとなって調査の立案、実施、分析を担当してくれました。彼女なしには十分な研究成果は得られなかったでしょう。二度目の採択もありえなかったでしょう。今回は、その科研費を使って行われた研究の成果の一端を、「職業的自尊心と組織的公正が作業安全に及ぼす効果—多業種における職業的自尊心—安全行動意思モデルの適用—」と題してまとめてくれました。

なお、これら2つの原著論文は、第三者による厳正な査読を経て掲載を許可されたものであることを付言します。

大学教員の重要な仕事の一つは後進の育成にあります。ここで私はこの任を外れることになりませんが、これからは私も一人の研究者として彼らに負けないような研究成果を出し続け、心理学から安全への貢献を行いたいと思います。